



はまなす季刊

医療法人はまなすHP ▶▶▶ <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人 **はまなす** 篠路はまなすクリニック

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人 **はまなす** はまなす医院

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555



2024年10月6日
メジロ 工藤立史 撮影

巻頭言

十年ひと昔

理事長 工藤 岳秋

血液透析専門だった篠路はまなすクリニックが2015年に消化器科、外科、腎臓内科、麻酔科を掲げ、外来・入院診療を始めてこの4月でちょうど10年になります。

初めの頃は「ここに病院があるとは知らなかった」「透析だけだと思っていた」などと言われ、どうPRするか思案に暮れたものですが、最近は腹痛や外傷などの患者さんが自らスマートフォンで検索して来院されるケースが増えました。情報化社会の発展を実感するところです。

この間、高齢化が一段と進み、福祉との連携が以前にも増して重要になりました。入院を機に患者さんやご家族と面談し、ケアマネージャー、訪問看護師などと協力して退院後の生活環境を整える、といった流れが常態化しました。このように介護体制が身近になるとは思ってもみませんでした。「十年ひと昔」という言葉を今更のように肌で感じています。

これからも、時代に合った患者さんへの寄り添い方を模索していきます。この後10年を経て現在を振り返ったとき「十年ひと昔」として現在の姿がどのように映っているか、今号のはまなす季刊を探し出して比べてみたいものです。

喜望峰

副理事長 上藤 立史



岬には「CAPE OF GOOD HOPE」(=喜望峰)というシンプルな看板があるのみだった。

昨今中東の紅海付近が危険な状況に陥っており、ヨーロッパ・アジア間の貿易船が喜望峰へ迂回している。大幅なタイムロスになるのはもちろんだが、アフリカ最南端の岬周辺は常に強風が吹いて波が高く暗礁が多い。こちらの航路も決して安全とはいえないのである。実は私は2010年8月に妻を伴って喜望峰を訪れたことがある。

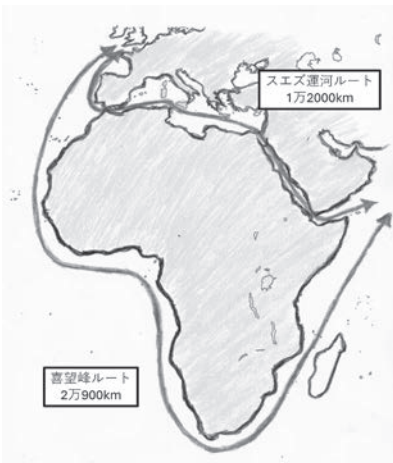
喜望峰は遠かった。成田から香港経由で南アフリカのヨハネスブルクまでおよそ20時間、国内線でケープタウンまで2時間、さらにそこから車で90分南下してようやく目的地に到着した。晴天だったが、風は強く波が荒かった。周辺に高い木は育たず、荒涼とした平原が広がっている。そのような環境で野生のダチョウやヒヒが暮らしているのは驚きだった。観光地として栄えているように思いこんでいたら、現地にはわずかに「CAPE OF GOOD HOPE」という幅5〜6m、高さ1m程度のシンプルなお作りの木造看板があるのみだった(写真参照)。

かつて喜望峰を超えてインドに至る海路は未知の世界だった。仮に喜望峰を超えてインド洋へ出たとしても、アフリカ東岸に達することがなかった。15世紀末になっ

バスコ・ダ・ガマがヨーロッパ人として初めて喜望峰まわりでインドへ到達し、ようやくアフリカ東岸にもルートができた。だが19世紀のスエズ運河開通とともに喜望峰からのインド航路は廃れてしまい、歴史の表舞台に立つことはなくなっていた。

この地に足を運ぶ前は、もつとにぎわいがあると思っていた。しかし現実の姿は人影がまばらでどことなく寂しさが漂っていた。多くの船が行き交った時代を想像しつつ感慨にふけっている私をよそに、傍らの妻はただの海にしか見えなうと言った。多額の旅費と長旅にこたえる感動をもたらさなかったらしい。今岬に立って沖を眺めれば、行き交う船が見えることだろう。一度は歴史の彼方に置き忘れられた賑わいが蘇ったはずである。もし行き交う多くの船舶を実際に目にするならば、私の妻にも大航海時代の面影を感じてもらえるのではなかろうか。

かつて喜望峰を超えてインドに至る海路は未知の世界だった。仮に喜望峰を超えてインド洋へ出たとしても、アフリカ東岸に達することがなかった。15世紀末になっ



ヨーロッパ-アジア間の2つのルート



表紙写真説明

メジロ



2024年10月、前田森林公園にて。メジロはスズメより小さく、全身が黄緑色で白いアイリングが名前の由来です。北海道では夏鳥で、平地から低山の森林で繁殖します。写真は秋になってツリバナの実を食べにやってきたところ。藪に隠れてなかなか手前に出てこないため撮影に苦労しました。ちなみに「目白押し」という言葉は、メジロが押し合うように並んで止まる習性からきたのだと言われています。

(工藤立史)



はまなす医院



訪問リハビリテーションのご紹介

はまなす医院では昨年12月1日より、介護保険を利用した訪問リハビリテーションを始めました。対象となるのは要介護認定の要支援・要介護をお持ちの方です。訪問地域は石狩市（厚田・浜益は除く）、札幌市北区となります。家で転んだことがある、階段が大変になってきた、透析以外の外出はおっくうだけと身体機能は維持したい…などに不安のある方は担当のケアマネジャーやお住まいの地域の地域包括支援センターにご相談ください。

(諏訪仁美)

～訪問リハビリテーションのサービス内容～

- 血圧・体温・呼吸・脈拍測定、全身状態の確認
- 心身機能の評価、機能訓練
- 日常生活動作・手段的日常生活動作の評価、練習
- 家族や介護者への適切な介助方法の提案
- 住環境の評価、福祉用具利用の提案
- 外出・移動手手段の検討、アドバイス
- 余暇活動の提案・拡大、地域コミュニケーションとの関わり合い促進

「開業30周年記念忘年会」

30th anniversary

2024年12月21日、京王プラザホテル札幌で「開業30周年記念忘年会」を開催しました。
年々参加者が増え、今年度は来賓を含め102名が顔をそろえました。

副理事長によるピアノ演奏、豪華景品が当たる大抽選会が行われ、普段あまり顔を合わせる事のないスタッフの間で交流も進み、笑顔に包まれた宴会となりました。(永田 裕士)







医療安全の勉強会を 開催しました

(野口 公貴)



11月7日、篠路透析ラウンジにて当院理学療法士の諏訪仁美さんを講師に移乗介助の勉強会を実施しました。医療や介護の現場では患者様をベッド・車椅子間などの移乗介助をする機会は少なくありません。ある程度自力で立って動くことが出来る人もいれば麻痺等があり全く起き上がることが出来ない人等様々な状況の介助の場面があります。介助側が自分よりも体の大きな方の介助を行う事も多くあり、誤った体勢で介助を行ってしまい腰を痛めてしまったという事も聞きます。

今勉強会では互いに負担のかからない姿勢や支え方、あまり力の必要としない体の使い方などを動画視聴や実技を交えてわかりやすく解説していただきました。実践してみると実際は数十キロある人の介助がまるで数キロ程度の物を運んでいると錯覚するくらい楽に感じました。今後移乗介助の際スタッフの介助方法が変わりますが、お互いに負担の少ない方法に変わったという事ですのでご安心ください。



中学生が職場体験に来ました

2024年11月22日 篠路はまなすクリニック

上篠路中学校の2年生男子2人が職業体験に来てくれました。2人とも普段から医療に興味を持ち、当院を選んでくれたようです。ジャージに着替えて緊張した面持ちでしたが、院内を案内して普段立ち入ることのない場所を見学してもらい、車いすとストレッチャーの乗車体験もしてもらいました。患者様の介助体験は、残念ながら対象者がいなかったため、スタッフと一緒に透析患者様の退室時のお手伝いを体験してもらいました。

後日、「先日の職場体験で、皆さんの接客がとても印象に残っています。患者さんと会ったりすると、自然と笑顔で話していて素晴らしいと思いました。患者さんと楽しく話すことで、患者さんの不安をなくしていると思いました。」「実際に見学し、医師や看護師の仕事を見て患者様への思いがよく伝わりました。

した。他の病気が感染しないように、たくさんのエリアに分けているのが印象的でした。」というお礼の手紙が届きました。医療職に進みたいと考えているようで、資格習得のための進学先や、就学年数などを聞いていました。職業体験を通してより興味をもち、将来私たちの仲間になってくれることを願っています。

(池上 由佳)



私はハイブリッド ヒューマン

私の下顎には右に1本、左に2本、合計3本のインプラントが入っている。還暦を前にして奥歯がダメになったときかかりつけの歯科医師は入れ歯ではなくインプラントを勧めた。手術を紹介された先はあいの里の北海道医療大学病院である。ちょうど篠路にクリニックを建てていた時期であった。あいの里と篠路は車で10分ほど。歯科外来と工事現場を往復しながらおよそ1年を経てインプラントも建物も無事に竣工の運びとなった。

早いものであれから20年になる。この間にクリニックは2度増改築を行い、私のインプラントも2度ほど手直しを受けた。ともに使い勝手は上々である。

『ハイブリッド・ヒューマンたち』（ハリ・パーカー著、川野太郎訳）には失った四肢を補う代替医療について詳しく述べられている。英国人ハリ・パーカーは紛争処理のために派遣されたアフガニスタンで道わきの即席爆発装置を踏んで致命的な損傷を負う。迅速なDMAT（災害医療派遣チーム）の手当てを得てかうじて命を取りとめたものの、両下肢（左は大腿、右は下腿から）を失ってしまった。筆舌に尽くし難い苦難の末に最新鋭の義肢が装着され、懸命のリハビリを経て健

常者と変わらぬ歩行が可能になる。だがそれからも幻覚痛に苛まれ障碍者であるための鬱屈した気分を振り払うことができない。

だが彼はひるむことなく切断肢にインプラント義肢を用いるケースのリサーチを始めた。残された下肢が短すぎれば通常の義足が装着できない。このことは即時に車いす生活者（ホイラー）になることを意味する。そこに大腿骨インプラントが開発された。短くなった大腿骨にインプラントを挿入して長さを稼いで外部に突き出た部分に義足を取り付けるのである。チタンは骨と癒合する性質をもつという。本書では実験的に接合されたウサギの大腿骨とチタンが互いに溶け合うように癒合した写真が紹介されている。

大腿骨インプラントの安全性を保障するエビデンスはまだない。いかにチタンが優れていても骨髄から出て皮膚を貫いているのである。感染の懸念はぬぐえない。

この医療は本国イギリスでは認可されていない。そのため障碍者は合法的な手術を求めてオーストラリアへと海をわたってゆく。彼らはホイラーから脱却できるならば悪魔に魂を売ることも辞さ

ない覚悟なのだ。

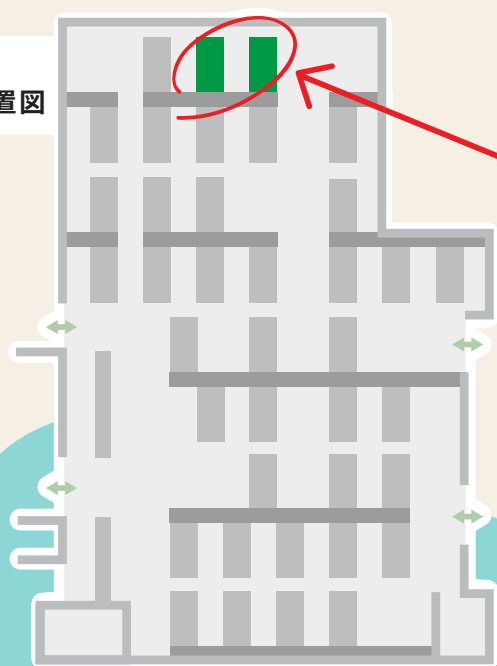
ハリ・パーカーは廃絶した器官を人工物で補っている人間をハイブリッドヒューマンと名付けた。手足のみならず人工内耳や脳内電極などの最新の知見にも言及している。

かくいう私も昨年の4月に頸椎にインプラントが埋め込まれた。変形した3,4番の頸椎を削りとりて代わりに円筒型のチタンを入れたのである。コケシ人形の首をインプラントに置き換えたような、といえはわかりやすいだろうか。さらに8月には突如徐脈性不整脈が出現してペースメーカーを埋設した。考えてみるとこのペースメーカーに加えて先に述べた歯と頸椎のインプラントや白内障手術の眼内レンズ、近視・老眼のメガネ、補聴器などを入れると私の体ではいくつもの外部機器が働いてADLを保っている。これはもう立派なハイブリッドヒューマンではないか。であるからにはこのまま最長不老距離を伸ばしてもっと進化したハイブリッドヒューマンたちの活躍を見届けてみたい。近未来像はいかなるものであろうか。

はまなす医院からのお知らせ

石狩の透析室にベッドが 2床増えました

この度、透析監視装置が**2台**増えて総台数**42台**となりました。今後も地域の医療に貢献していきますのでよろしくお願いいたします。（高藤 一教）

透析室
ベッド配置図

ここに2床増えました！



新しく入りました！

篠路はまなすクリニック
看護師

平原 由美子さん

1 / 1

編集後記

年齢を重ねるごとに思う。冬が嫌だ。寒いのが辛いし、雪が邪魔だし、道が滑るし、車に服に暖房に余計にお金がかかる。

冬が来る毎に移住したくなるので、日本で一番気候が良い都市をネットで調べたことがある。

静岡市がそれらしい。温暖な気候で、平均気温の最低・最高月の差が 21.6℃と政令市の中で最小だそうだ。

いいな静岡。でも地震が怖い。

結局ずっと北海道にいそうな気がする。（H・N）